



次回のこの欄に登場するのは、あなたかも？  
身近なニュース、まちの話題などをお知らせください  
☎情報政策課広報係 ☎22-1411 (内線431)

仕事でよく大阪へは行くのですが、途中で降りて彦根に来るのは初めてです。お城に行く途中にあった看板に「花の生涯」の言葉を見つけて、この「舟橋聖一生涯100年記念特別展」の会場を訪れました。

世田谷区にある豪徳寺はよく知られたお寺ですが、井伊家の菩提寺でもあるので、区民には彦根や井伊直弼に親しみを感じている人が多いと思います。それに、舟橋聖一さんの作品を原作とする最初の大河ドラマ「花の生涯」が放送されたとき、私はまだ小さな子ども

もでしたが、大人たちが騒いでいたのをよく覚えています。

舟橋聖一さんには感心することが多いのですが、特に強く思うのは「花の生涯」というタイトルです。それまで「悲劇の人」など、あまりよくなかった井伊直弼のイメージが大きく変わった理由の一つは、このタイトルにあるのではないのでしょうか。

「花の生涯」は、実はまだ読んでいないのですが、これを機会に、ぜひ読んでみることにします。

### 「花の生涯」をぜひ読んでみます

伊東明子さん（東京都世田谷区）



▲「花の生涯」は何度も舞台やドラマなどになりました

伊東さん ▶

「舟橋聖一生涯100年記念特別展」は、旧市民ギャラリー（尾末町）で11月28日（日）まで開催中。時間は9：00～16：30。

会場では、舟橋聖一氏のご遺族から寄贈を受けた直筆の執筆原稿や、再現された書斎「残月の間」、文士劇で使われた道具など、作家・舟橋聖一の活動や業績を幅広く紹介しています。



▲寸劇を交えたり、契約を解除する書面を実際に書いたり、後悔しないための知識を分かりやすく伝えました



衣斐さん ▶

### 「いりません」「お帰りください」と言いました

衣斐俊子さん（尾末町）

10月6日に東地区公民館で開催された、彦根市主催の「消費生活講座」に参加しました。

講師は、市役所で市民からの相談を受けている、消費生活相談員の小林とも子さんです。普段の相談の経験から「配水管の無料点検と言って訪れ、少額で掃除の契約をさせ、最後に床下換気扇や調湿剤などの高額商品を売るうとします。無料でも、安易に点検の承諾をしないで」と話されました。

その後、市職員の演じる寸劇を見ました。「市役所のほうから来ました」と市職員を装った訪問販売の業者が、「水道水が汚れています」と言って、わずか数万円の浄水器を、「今なら特別にお安くしま

す」と数十万円で購入せうとする内容です。劇では、友人の助言でおかしいのに気づいた購入者が、市の消費生活相談に行き、お金を返してもらう方法を教えてもらうことができました。

悪質な業者は、あの手この手で買わせうとするので、しっかり者だと思っていた人が被害にあったと聞いてびっくりすることもあります。大事なことは、いらないうときは「いりません」「お帰りください」と言うこと。はっきりと意思表示することで、後でお金を返してもらうこともしやすくなるそうです。また、失敗したと思ったら一人で悩まず、身近な人や市役所に相談することが大事だと感じました。